

「生き物のお土産」について

名古屋教育文化センター 市川章太郎

これから本格的な川遊びが始まります。さあ、今年はザリガニを自分でつかまえるぞ！お魚ゲットするぞ！等々、お子さんも期待一杯だと思います。

子供たちは、川の生き物や昆虫等、身近な生き物に触れるのが大好きです。私たちが出来る限り、子供たちに生き物とのふれあいを経験させてあげたいと思います。しかしこの数年、私たちが今まで行ってきた取り組みの中で、再検討を必要とする事が幾つか出てきました。川の生態系をちゃんと守れているだろうか、子供たちにもっと自然を大切に守れる様、私たちが教えてあげる事は無いだろうか等…。検討した結果をここでお伝えします。

生き物と直に触れあえる場所は、日進市の岩崎川・岩天川・豊田市の矢作川、大高緑地公園内にある「秘密の用水路」。

特に行く機会が多いのが岩崎川。例えば岩崎川にはこんな生き物が生息しています。

場所	その場所に生息する主な生き物
岩崎川（日進市）	魚…オイカワ・タモロコ・ヨシノボリ・カマツカ ブルーギル・カタヤシ・ドジョウ 亀…アカミミガメ・スッポン エビ…川エビ その他…ウシガエル・アメンボ・カワトンボ・ ヒメタイコウチ・ヤゴ・ザリガニ

●ウシガエル・アメンボ・ヤゴは、生きたものを餌とするので、実際自宅で飼うのは難しいです。

●魚は一度水から上げてしまうと、それ以降は急速に弱ってしまい、ほとんど長生きしません。

●ヒメタイコウチは大変希少な存在ですので、この生き物に会えたら物凄いラッキー！もちろん、お持ち帰りはできません。じっくりと、その場で観察するのみ。

●岩崎川で見かける「ぶっといオタマジャクシ」は、ウシガエルのオタマです。子供たちに大人気のウシガエルのオタマ。比較的、網にかかりやすく、獲物取り初心者の子でも捕まえやすいので、今までは「お持ち帰りトップ3」の中に必ず入っていました。しかし、添付した資料「特定外来生物のリスト」の欄に、ウシガエルが入っています。子供たちにとっては残念かと思いますが、外来生物法に則り今年度からは、持ち帰ることはできません。

ただし、現場でじっくりと観察し、その後は川に戻す様にします。

●なんでも持ち帰り禁止には致しません。 御家庭で大切に飼育する事も、お子さんが生き物を大切にすることを育てる上で、とても大切な経験です。持ち帰って飼育が可能な生き物はザリガニ、ドジョウ、ヨシノボリ等、運搬飼育がしやすい物。

ヨシノボリやドジョウは魚ですが、これは比較的生命力が高いため飼育が可能です。ただし、飼育ケースにこれらを一杯持ち帰るのではなく、「一つの飼育箱に一種一匹」です。摂り過ぎる事の無い様に（今までも十分、摂り過ぎない様に気をつけておりましたが）したいと思います。

●御家庭で飼育をするのが難しくなった場合は、必ず元の場所へ戻しましょう。先生に返還を話してもかまいません。活動の中で、きちんと返してあげたいと思います。

センターでの取り決めは以上です。子供たちには、授業の中で話をしますが、御家庭でもこの取り組みの事を話題にして頂けると有り難いです。お子さんが生き物に興味を持ち、育ててみたい気持ちを持つことはとても大事な事です。どうしても持ち帰りたい、育ててみたいと思われた方は御家族でお出かけになってみてはいかがでしょうか。川の場所等は問い合わせ頂ければお知らせいたします。

御協力頂きますよう、よろしくお願いいたします。